ハート・オブ・ゴールド 通信

vol.38

2018 年 1 月 15 日 発行

発行 / 編集　ハート・オブ・ゴールド事務局
本部　〒 701-1213　岡山市北区西辛川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail:hginfo@hofg.org

URL : http://www.hofg.org/

インタビュー

練習風景

練習メニュー確認

雨のため屋内ジムで練習

岡山市で車いす陸上トレーニングキャンプを実施

プロジェクト・マネージャー　**西山　直樹**

ハート･オブ･ゴールドは、岡山県･市ナショナルチーム等キャンプ誘致推進事業補助金並びに岡山南ロータリークラブの支援を受け、2017 年 11 月 5 日から 11 日までの 7 日間、カンボジアの車いすランナー 2 名とコーチ 1 名を招へいして、車いす陸上トレーニングキャンプ（パラキャンプ）を実施しました。

到着した 5 日には、アニモ･ミュージアムを訪問し有森代表の陸上にかける想いに触れ、6 日は、歓迎式典に出席。ランナー達はメディアからの取材を受け､NHK 岡山放送局の「もぎたて！」など、多くのテレビ、ラジオ、新聞で取りあげられました。

6、7 日は、就実大学祇園グラウンドをお借りして、岡山市在住の世界的な車いすランナーである、グロップサンセリテ ワールドアスリートクラブ所属の松永仁志監督兼選手の指導の下、同クラブ所属の佐藤友祈選手、生馬知季選手と共に練習をしました。長距離を走りこんだり、スタートやフィニッシュ、体の使い方などを練習しました。

8 日は雨だったので、グロップサンセリテ社内ジムにおいて、マシンを使って肩の可動域を広げるトレーニングや、レーサーを固定して短い休みを取りながら一定時間を同じピッチで回し続けるインターバル走をしました。また、松永コーチからトレーニング計画や簡単な解剖学などの講義を受けました。

9 日には参加選手とコーチ全員で振返り会を行い、トレーニングで気を付けること、コンディショニングの作り方などを再確認し、お互いにこの 3 日間の感想を述べました。

招へいしたヴァン・ヴォン選手は 2016 年のリオデジャネイロ・パラリンピックに出場しましたが、ワイルドカードと呼ばれる特別枠で、規定の基準には達していませんでした。また、チョン・プン選手もいろいろな海外の大会に出場していますが、カンボジア国内には優秀な指導者がいないため、なかなか記録が伸びない状況でした。

振返り会を終えて

今回のトレーニングを実施したことにより、岡山県のトップアスリートからトレーニング方法やハンドリムを回す技術、スタート時の加速を上げる技術等を学び、今後の記録更新に向けてのきっかけをつかむことができました。また、コーチのラック・ロイ氏も、新たな視点で選手の練習を見ることができるようになり、2 選手だけでなく他の選手に対しても学んだことを活かしていけるようになったことと思います。

レーサーの部品に関しては、なかなか障がい者スポーツに対して国からの予算が付きませんが、技能に関しては、大きく向上することができました。参加した 2 名は引き続きトレーニングを頑張って、東京パラリンピックで松永選手、佐藤選手、生馬選手に是非会いたいと話していました。

ハート・オブ・ゴールドは、今回のトレーニングの成果をカンボジアでも継続して活かせるよう、年に一度の障がい者短距離陸上競技会や技術力向上のための支援を引き続き実施していきたいと思います。

ハート・オブ・ゴールドは本年 20 周年を迎えます。　会員募集中！

【JICA 草の根技術協力事業】

カンボジア王国中学校体育科教育指導書作成支援・普及プロジェクト 本邦研修を実施

プロジェクト・マネージャー　西山　直樹

2017 年 1 月から JICA 草の根技術協力事業として実施している「中学校体育科教育指導書作成支援・普及プロジェクト」で、2017 年 11 月 13 日から 16 日までの 4 日間、岡山において、カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）の技術委員会メンバーを 6 名招聘して本邦研修を実施しました。

岡山県教育庁の講義

12 日夜、岡山に到着した一行は、13 日午前、岡山県立操山中学校・高校の体育の授業を視察、午後は岡山県教育庁で保健体育課の平井宏之先生より講義を受けました。14 日は午前中に岡山市立藤田中学校、午後は岡山市立第三藤田小学校を体育の授業を中心に視察しました。15 日は総社市立総社西中学校の体育の授業を視察し、夕方にはソレイユ・ペタンククラブの方々とペタンクの練習試合をしました。16 日は、午前中に岡山大学大学院教育学研究科原祐一講師の講義を受け、午後に岡山市立東山中学校の体育の授業を視察し、夕方には帰国の途につきました。

リズムジャンプの授業に参加

授業視察後の質問会

跳び箱の授業を視察

岡大で研修の成果を発表

この研修に参加した教育省の担当官は、これまで一度も日本に行ったことがなく、ビデオ等で日本の体育の様子は見たことがありますが、実際に日本の体育授業を見たり先生方に質問をするのは今回が初めてでした。この研修で、日本の先生たちがどのように指導書を利用し、授業を展開しているのかを実際に見てもらい、指導書にどのような内容を記載すればカンボジアの先生にとって分かりやすい内容になるのかを彼らに考えてもらうことが目的でした。

彼らが先生達にした質問から、日本の先生が体育授業で生徒の運動時↗

パラキャンプ交流事業

ランナー達は岡山滞在中、交流事業として朝日塾小学校を訪問し、これまでの障がい者としての苦労やスポーツ（陸上）を通して自分達がどのように変わってきたのかを話しました。子ども達は、カンボジアという途上国で、さらに障がいというハンディキャップを背負いながらも一生懸命前向きに生きている彼らの話に耳を傾け、講話の後には駆け寄って握手やサインを求めていました。

朝日塾小にて子ども達の歓迎を受ける

また、清輝小学校で行われた人権ふれあいスポーツ教室に松永選手達に同行して、小学生のレーサー乗車体験をお手伝いしました。

このような子ども達との交流は初めての経験で、ランナー達は感激の面持ちでした。

ランプロから中古シューズ贈呈式

11 月 10 日、ランプロで集めてくださった中古シューズ贈呈式があり、有森代表と、パラキャンプに参加したカンボジアの車いすランナーとコーチが出席しました。今年 3 回目の支援です。今回は、125 足も集まりました。いただいたシューズは、順次カンボジアに持って行き、カンボジア障がい者陸上連盟を通じて、皆様の想いとともにお届けします。

↘間を十分に確保する工夫をしていることや、技能だけでなく関心・意欲・態度、思考・判断をどのように評価しているか、生徒自身が考えることにより授業を進めていく教授法、限られた時間内で子供たちの学びを最大限にするために授業の準備が大切なこと等を学んだことがわかりました。彼らは、カンボジアに戻ったら、本邦研修の内容を他の教育省担当官や現場の中学校等に伝えていこうと決意していました。

現在、プロジェクトでは、2016年12月に教育省により認定された学習指導要領に沿った内容の指導書を作成しており、11月末の時点で、中学校1年生の草稿が完成しています。今後は、各領域・種目で統一感がないことや、今までボカタオ（伝統武道）や卓球、ペタンクといった種目は体育の先生自身もやったことも学んだこともない状況で新しく教えていくのは難しい等の課題を解決し、現場の体育の先生たちにとってより読みやすく、利用しやすく、教えやすい内容へと修正していく必要があります。今回の本邦研修では、その修正をしていくためのきっかけとなる知識を身につけることができました。

ハート・オブ・ゴールドはこれからもカンボジアの教育省、州教育局、校長や体育の先生と共に成長しながら、中学校の体育の先生や校長先生、州の教育局の担当者が理解しやすい指導書を作成し、カンボジア全国の中学校の生徒が新しい体育を通じて「態度・知識・技能・協調性」を学んでいけるよう、プロジェクトに取り組んでいきたいと思います。

ワークショップ開催

9月15日にカンボジア教育省担当者執筆による中学校体育科指導書の草稿の初稿が出来上がったのを受け、現場の意見を取り入れてよりわかりやすい指導書にするために、モデル州でワークショップを実施しました。まずは、10月25日～27日に、プノンペンの3中学校の体育科教員を対象としたワークショップを開催。参加した先生達からは、単元計画の作成の仕方が難しいとか、ボカタオ（伝統武道）が難しいなど様々なコメントが出ました。続いて、本邦研修後の11月22日～24日には、バッタンバン州でワークショップを開催し、リズム運動、バスケットボール、卓球の3種目について説明しました。模擬授業をした教育省の担当官は、岡山の中学校で実践されていた、限られた授業時間内で生徒に効率的に運動してもらうための指導法を取り入れる等、本邦研修で学んだことを早速活かしていました。

来年9月の完成を目指して、これからも現場の先生の意見を聞きながら、より良い指導書を作成して行きます。

ENJJ全体会議にて、有森代表が基調講演 並びに西山所長が活動報告

有森代表は、アンコールワット国際ハーフマラソンを無事に終えた翌12月4日、プノンペンにおいて、在カンボジア日本大使館、NGO、JICA、カンボジア日本人商工会が一堂に会するENJJ（各団体の英語名の頭文字）全体会議において、基調講演を行いました。

約80名が出席した本会議で、アンコールワット国際ハーフマラソンに最初に参加したきっかけや、ハート・オブ・ゴールドの立ち上げに至ったいきさつ、国際協力活動を通して深まったカンボジアの地雷被災者や子ども達への想いを語りました。

そして、カンボジアに滞在する日本人関係者を中心とする会場の聴衆に、同じスポーツという分野で活動する企業や団体がそれぞれ効率良く連携することでカンボジアに貢献していけることを強く訴えました。

また、HG東南アジア事務所長の西山もこの会議で、カンボジアにおいてなぜ体育科教育支援が必要なのかを、ユネスコの「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」の中で体育が基本的な人権であると記載されていることや、教育システムの中で体育科がカンボジアの将来を担う人材を育てることに繋がるようになっていること等を説明し、ただ単に体育を教えるだけでなく、良質の体育を教えていく必要があることを説明しました。

小学校に鉄棒を設置しました

プロジェクト・オフィサー　**ケオ・ソチェトラ**

ハート・オブ・ゴールドは、第6回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国(2016)からの支援により、カンボジアのシアヌークビル州の5つの小学校（カマコー小、プサール小、アヌワット小、フンセンクロン小、コンペイン小）に鉄棒を設置しました。5校とも、州教育局が実施した新しい体育のワークショップに参加した小学校です。HGスタッフが設置状況を巡回した9月下旬には学校はまだ夏休み中でしたが、11月の新学期になれば、体育の鉄棒の授業や休み時間にたくさんの子ども達に利用されることでしょう。

ニューチャイルドケアセンター（NCCC）

アドミニストレーター　　**高島　公美**

新学期を迎えた子ども達

子ども達 16 名はみんな元気に暮らしています。今期も、多くの方々が NCCC の子ども達と交流して下さいました。

6 月には、南真会のご一行が、ボロボロになった靴箱の代わりにアルミ製の新しい靴箱をプレゼントしてくれました。新学期に向けて、一人一人にリュックと、新しい自転車 2 台もいただきました。今、子ども達は、新しい鞄を嬉しそうに背負って通学しています。

8 月には、岡山学芸館高校ＳＧＨの生徒さんが、サッカー、けん玉、バレーボールや縄跳びなどをして遊んでくれました。また、神戸学院大学の学生さん達は、去年に続きミニ運動会を開催して二人三脚やしっぽ取りをした後、一緒にカレーや白玉団子を作ったり、日本の遊びを紹介してくれたり、子ども達と終日、じっくりと関わってくれました。

9 月には、就実大学の学生さん達が来訪。ラジオ体操やアルゴリズム体操を教えて下さり、お昼には市場で食材を買って一緒にカレーを作りました。子ども達はお返しにココナッツダンスを教え、一緒に踊りました。同じく 9 月には、第三藤田小学校とスカイプをつないで交流しました。日本からいろいろな運動を紹介してくださり、子ども達は生まれて初めて目にする跳び箱に興味津々でした。

10 月には、ハートペアレントさん達が来てくださいました。子ども達は自己紹介した後、施設を案内し、アプサラダンスを披露しました。ペアレントさんからは文房具などのお土産をいただきました。

12 月には、HG スタディツアーのお客さまが訪問して下さいました。TAO の歯医者さんによるボランティアでの歯科検診も 4 年目となり、子ども達はすっかり慣れて、今年は泣きだす子はいませんでした。一年間、練習を重ねてきたダンスの披露、触れ合いのジェスチャーゲーム、お客様にお土産を手渡す時の緊張感など、子ども達にとって素晴らしい経験となりました。

初めての試みとしては、9 月に、「音楽を聴いて絵を描こう！」をし、ショパンの『子犬のワルツ』をスピーカーで流して、浮かんだイメージを子ども達に絵に描いてもらいました。子ども達に自分の気持ちを表現する機会を持ってもらうためでしたが、初めてこの曲を聴いた子ども達は楽しそうな絵を描いていました。

また、4 月末からインターンに入っている藤はなさんが、NCCC で保健教室を開いてくれ、「熱中症から身を守ろう」「大人になるからだのしくみ」「栄養について」など、子ども達にとって必要な情報について図やゲームを交えてお話ししてくれました。子ども達はメモを取りながら熱心に聞いていました。

インターン藤さんの保健教室

◇　　◇　　◇

退職のご挨拶　　高島 公美

1 年間の任期を終了し、12 月中旬にシェムリアップを発ちます。任期中は多くの方々に温かいご支援や労いの言葉をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。皆さま、短い期間でしたが、お世話になり、ありがとうございました。

HG シェムリアップ日本語教室

京都民際日本語学校所属 HG 日本語教師　　**渡邊　格**

BBU 大学　日本語講座

シェムリアップ日本語教室は、Build Blight University（以下 BBU 大学）と提携し、BBU 大学内で 3 クラス、HG シェムリアップ事務所で 1 クラスを運営しています。クラスは、日本人教師が教えるだけでなく、カンボジア人スタッフも授業を行っていますが、それはカンボジア人スタッフの日本語教師としての養成を兼ねています。授業はどのクラスも 1 週間に 3 回、一回 1 時間です。シェムリアップで日本語教室が始まって 2 年が経ち、漸く最初に開設したクラスが初級修了を迎えました。最後は 2 人だけの授業でしたが、最後まで頑張って勉強を続けてくれました。

授業風景

授業では文法や漢字、会話などを勉強しながら、時々、日本の文化紹介や日本映画の観賞会をするなど、勉強だけでなく、日本を知ってもらうための教室内活動も行っています。日本語を勉強する目的は様々ですが、主に仕事のために勉強している学生がほとんどで、観光ガイドに ↗

渡邊先生から初級修了証書を授与

アンコールワット国際ハーフマラソン（AWHM）運営支援と障がい者ランナー支援

プロジェクト・アシスタント　**米山　遥香**

第22回大会を迎えた本年は、アンコールワットでの僧侶の集会にフン・セン首相が出席することになったため、コースが例年とは大きく変更となるハプニングがありましたが、78の国・地域から10,557人（外国人4,654人、カンボジア人5,903人）が参加しました。カンボジア障がい者陸上連盟（CDAF）から参加した障がい者ランナーは、車いすランナー11人（うち女性2人）、義足ランナー19人（うち女性3人）、義手ランナー12人（うち女性2人）でした。

有森賞として、AWHMと姉妹マラソンであるかすみがうらマラソンに今年も2名のランナーが招待されます。

アンコールワットウォーキング

本部広報担当　**山本　雅之**

HGスタディツアーの大きなイベントの一つ、アンコールワットウォーキングが12月1日早朝に行われました。参加したのは、ツアー参加者29名、BBU大学生9名、NCCCの子ども17名、チェイ小の生徒81名、HGスタッフ・関係者16名。ウォーキング前のラジオ体操では、子ども達は、今までしたことがない動きが面白かったのかゲラゲラ笑っていました。有森代表のスタートの合図で出発。ハートペアレントの方々は子ども達と手を繋いで歩き、笑顔を交わしていました。歌の伴奏に縦笛を演奏してくださった方もいらっしゃいました。ゴールの広場に着いたときには、普段は裸足かサンダルの子ども達は靴擦れしていて、有森代表は、「来年は靴を履かなくていいから、いつも通りの裸足かサンダルで来て」と伝えていました。

レクリエーションで一番盛り上がったのは、現地の木取りゲーム。スタートの合図で、真ん中に置いてある木をどちらが先に取って自分の陣地へ持って帰るかを競います。大人も子どもも、本気で走ったり、転げたり、駆け引きしながら、木を取り合いました。最後に、子ども達にお土産を渡しました。日本の皆様からの支援物資である、鉛筆、ノート、歯ブラシ、石けん、Tシャツ、タオルをセットにして、支援者手作りの巾着袋に入れて皆様の思いと共に渡してきました。

浄水器の贈呈式

プロジェクト・アシスタント　**米山　遥香**

小学校体育普及事業の体育研究指定校であるクラチェ州クラチェクロン小学校で、大光電機株式会社様からのご支援により設置した浄水器の贈呈式を7月18日に行いました。

日本から大光電機株式会社のご担当者がご出席くださり、クラチェ州教育局副局長、郡長、PTA代表らも招待され、校長先生は「長年体育の支援をしてくれているハート・オブ・ゴールドが大光電機株式会社との協力により浄水器を設置してくれて、子ども達が安心して安全な水を飲むことができるようになり、大変うれしい」と話していました。

また、子どもたちは「おいしい、おいしい」と言いながら嬉しそうに水を飲んでいました。熱中症予防のためにも体育の時間や休み時間にしっかり水分補給をし、ますます体育が発展していくことを願っています。

↘なりたい人はもちろん、ホテルやレストランで働く学生たちも日本語を勉強しています。

チェイ小学校HG日本語教室

チェイ小学校では、初級クラスを開設しました。毎日午前11時半からチェイ小学校の子ども達とNCCCの子ども達が日本語を勉強しています。チェイ小学校ではみんなが楽しく勉強できるように、教室内活動やゲームなどをしながら勉強しています。

これまでチェイ小学校日本語教室で勉強してきた中学生や高校生も、もちろん日本語の勉強を続けています。NCCC内で午後6時半から一時間、授業が行われています。来年7月には、日本語能力試験N5に合格できるレベルまで頑張って勉強して欲しいと思います。

第７回 親子チャリティマラソン in おもちゃ王国

９月 24 日に開催された今大会の参加者は 274 名。磯部光里選手と神田千絵コーチ（岡山シーガルズ）、佐藤靖子プロゴルファーをゲストに迎え、ももっち、うらっち、ウェンディー、毎年ランナーを先導してくれる ALIVE、そして岡山大学と岡山学芸館高等学校の学生ボランティア達も。準備運動した後、エイコースポーツの三宅社長の合図で、子ども達は元気いっぱいにスタート。途中で給水しながら、全員完走しました。くじの抽選の後は、日本赤十字社の横松さんの指導のもと心臓マッサージや AED の使い方を学びました。この大会でいただいた寄付で、カンボジアの小学校に鉄棒を設置します。

第６回富士山マラソン

11 月 26 日、若干の風と強い日差しはあったものの、好天に恵まれて、絶好のマラソン日和となりました。

チャリティグッズ販売の HG ブースでは、会員の西ご夫妻と池尻さんが HG の T シャツを着てアピール、20 周年記念 T シャツなどを販売して下さいました。売上は HG の活動に使わせていただきます。ご協力して下さった皆様、ありがとうございました。

有森代表、長野県高森町立高森中学校にて講演

10 月 20 日、有森代表は、HG 飯田クラブ記念事業として、高森中学校において「心の金メダルを目指して」と題して講演をし、中学生達に、夢を達成するための気持ちの大切さを話しました。

講演前の町長との会談には、その数日前にピョンチャンパラリンピックへの出場を決めたばかりのパラアイスホッケーの熊谷昌治選手も来てくださいました。そこで、講演の始めに、サプライズゲストとして熊谷選手に登場していただき、予選でゴールを決めた話などをしていただきました。珍しい旧オリンピアンと現パラリンピアンの共演となり、中学生達にとっても良い機会だったと思います。

有森代表、小学校長教育研究大会にて講演

11 月 2 日に、中国地区小学校長教育研究大会岡山大会において有森代表が講演しました。体育（動き）、美術（色）、音楽（音）は、内面を表現するために重要な教科なので、特に小学校では大切にして欲しいと話しました。有森代表は自らの学生時代を振り返り、小学校で陸上に出会い一生懸命することの楽しさを知り、中学校では陸上競技が自信をくれ、高校で「諦めないこと」を学んだことが今の自分をつくっていると語りました。そして、自分の回りには、人が共に育つ「共育」の思いで育ててくれた先生がたくさんいて、スポーツが生きる力を育てていく手段になると教えてくれたその言葉の先に、ハート・オブ・ゴールドの活動があると語りました。

国際理解教育

７月７日に、朝日塾小学校で、一時帰国中の手束 HG 東南アジア事務所副所長が出前授業をしました。現地の子ども達の写真を見せながら、カンボジアの現状についてお話しました。

子ども達からは、カンボジアの人口、通貨の種類、普段の食生活など沢山の質問がありました。

授業の最後には、昨年の朝日塾小学校からの寄付や支援物資がカンボジアの子ども達のために大変役立っている報告をさせていただきました。

こうして幼い頃から国際協力活動に触れている体験が、将来、貴重な経験に変わることを期待しています。

ハート・オブ・ゴールドの奨学金を受けて

ソン・ソッキイア

ソン・ソッキイアと申します。27 歳で、結婚して子どもが一人います。

2008 年に HG の支援で一年間、岡山学芸館高等学校に留学しました。日本の生活・勉強・クラスメイトとの交流など、すごくいい経験になりました。2009 年カンボジアに戻って高校を卒業しました。小さい時から看護師になりたいという夢がありましたが、看護学校に行くにはたくさんお金がかかるので難しい状況でした。でも HG の皆さんはいつも応援してくれ、HG から奨学金を受けることになり、2010 年から 3 年間、プノンペンにあるチェンラ大学に入学することができました。やりたかった勉強だったので、どんなに難しくても、一度も夢をあきらめようと思ったことはありません。毎月プノンペンにある HG 事務所へ行き、いろいろな相談にのってもらいました。2013 年に国家試験をうけて無事に卒業でき、シェムリアップに戻って、国立病院で契約スタッフとして看護師をしていました。でも、日本と関係があり、教育病院で、カンボジアの子ども達に質の高い小児医療を提供し、貧困層の人々には無料で診療しているアンコール小児病院でどうしても働きたかったので、2014 年に試験を受けました。何度か試験に挑戦して、とうとう合格し、今、アンコール小児病院で看護師として働いています。そのお給料で HG に少しずつ奨学金を返せるようになりました。そして、遂に本年 2017 年 7 月に、借りた奨学金をすべて返済しました。小さい時からの夢を叶えて、やりたかった仕事をすることができ、すごく嬉しく、また、ほっとしました。HG の支援がなかったら今の私はありません。本当に心から感謝しています。

看護師の仕事のほかに、NCCC の「サラチュガニ（おいしい教室）」では近所のお母さん達や子ども達に、「ソッキイアの保健教室」として、デング熱、下痢、栄養など衛生と病気の予防について教えました。これからも自分の知識を使って人々を助けたいと思います。

ハート・オブ・ゴールド飯田クラブ懇親会

10 月 19 日、ハート・オブ・ゴールド（HG）飯田クラブ懇親会に有森代表と HG 本部スタッフが参加し、酒井会長や会員の方々と共に HG 飯田クラブ 15 周年をお祝いさせていただきました。HG 本部のカンボジア支援活動に共感して設立されたクラブの一つです（現在は、他に福島クラブ、石巻クラブ、長岡クラブがあります）。HG の活動を支援するため、りんごジュースの売り上げを寄付していただいています。

奈良トヨタグループ様より車寄贈

12 月 11 日にトヨタカローラ奈良本社において奈良トヨタグループ 75 周年記念事業として車をご寄贈いただきました。カローラ誕生 50 周年を記念した 500 台限定記念車のカローラアクシオハイブリッド。ナンバープレートは、有森代表の誕生年とカローラ誕生年が同じだったことにちなんでおり、オリンピック特別仕様プレートです。大勢のメディアも詰めかけ、盛大な除幕式が行われました。ドアには、ハート・オブ・ゴールドのロゴが貼ってあります。この車でしっかり活動して参ります。

主な活動報告（2017 年後半）

7/4　奈良県経済倶楽部・事務局長講演（奈良）
7/7　朝日塾小学校・出前授業（岡山）
7/10　倉敷市立連島東小学校・出前授業（岡山）
7/18　クラチェクロン小学校・浄水器贈呈式（クラチェ）
7/26　教育省が新しく 6 名の NT を認定（プノンペン）
8/20　岡山学芸館高校 SGH、NCCC 訪問（シェムリアップ）
8/27　神戸学院大学 NCCC 訪問（シェムリアップ）
9/2　HG 長岡クラブ総会・交流会（新潟）
9/18　就実大学大﨑ゼミ NCCC 訪問（シェムリアップ）
9/20　HG 福島クラブ総会・交流会（福島）
9/24　親子チャリティマラソン in おもちゃ王国（岡山）
9/24　おがち健康マラソン（秋田）
9/28　第三藤田小学校 -NCCC スカイプ交流
10/1　animo club、ボンジュール清音ペタンク大会出場（岡山）
10/3　西山所長、ナロン教育大臣と体育教育について協議（プノンペン）
10/19　HG 飯田クラブ懇親会（長野）
10/20　高森町立高森中学校にて代表講演（長野）
10/21　岡山学芸館高校 SGH キャンプ・事務局長講演（岡山）
10/25-27　JICA 草の根・中学校体育教育支援事業 WS（プノンペン）
10/26　政田小学校・出前授業（岡山）
11/2　中国地区小学校長教育研究大会岡山大会・代表講演（岡山）
11/5-11　カンボジア車いすランナー強化合宿（パラキャンプ）（岡山）
11/9　朝日塾小学校・出前授業（岡山）
11/12-16　JICA 草の根・中学校体育教育支援事業本邦研修（岡山）
11/14　倉敷平成ライオンズクラブ例会（岡山）
11/19　広島国際フェスタにて事務局長パネラー登壇（広島）
11/22-24　JICA 草の根・中学校体育教育支援事業 WS（バッタンバン）
11/26　富士山マラソン（山梨）
11/30-12/4　HG スタディツアー（シェムリアップ）
12/1　アンコールワットウォーキング（シェムリアップ）
12/2　チェイ小学校歯科検診（シェムリアップ）
12/3　アンコールワット国際ハーフマラソン（シェムリアップ）
12/3　有森代表ら、教育省関係者と会合（プノンペン）
12/4　ENJJ 全体会議にて代表基調講演 / 西山所長発表（プノンペン）
12/4　有森代表ら、在カンボジア日本大使館訪問（プノンペン）
12/11　奈良トヨタにて車贈呈式（奈良）
12/13-15　JICA 草の根・中学校体育教育支援事業 WS（スヴァイリエン）
12/17　岡山学芸館高校 SGH、NCCC 研修受入（シェムリアップ）
12/19　野谷小学校にて出前授業（岡山）
12/22,23,25　小学校運動会支援（バッタンバン）
12/23　山陽女子ロードレース（岡山）

主な活動予定（2018 年前半）変更あり

1-3 月　筑波大学より JICA 短期海外青年協力隊受入れ（プノンペン）
1 月　岡山学芸館清秀中学校研修受入（シェムリアップ）
2 月　JICA 草の根・中学校体育教育支援事業 WS（プノンペン）
3 月　カンボジア教育省年次総会にて報告（プノンペン）
3/4　篠山 ABC マラソン（兵庫）
3/18　淀川国際ハーフマラソン（大阪）
　HG 西日本会員交流会
4 月　百間川ふれあいフェスタ（岡山）
4/15　かすみがうらマラソン（茨城・土浦）
　HG 東日本会員交流会
5 月　アニモ・チャリティバザー（岡山）
5 月　みしま西山連峰登山マラソン（新潟・長岡）
5 月　Arimori Cup マラソン大会（北海道・穂別）
6 月　アニモの会（岡山）
6 月　HG 総会・理事会・会員交流会（岡山）

＊事務局からのお知らせとお願い＊

● **HG 会員募集！**　活動に賛同してくださる会員さんを募集しています。ぜひお知り合いの方をお誘いください。

●**ボランティア募集！**　本部事務局では、ボランティアを随時募集しています。簡単な事務作業からイベントのお手伝いなど、ご都合に合わせてご参加いただけます。

●**書き損じ葉書・未使用の切手・クオカード・商品券**を集めています。本部事務局までお送りください。活動のために有効に使わせていただきます。

●**ホームページ、リニューアル**　「寄付する」タブから入会手続きと募金がオンラインでできるようになりました。また「20 周年記念事業」タブをダブルクリックすると、有森代表のメッセージがお読みになれます。

※ HG は認定 NPO 法人ですので、寄付金は、個人・法人を問わずすべて寄付控除が受けられます。相続または遺贈による寄付には相続税が課税されません。

◉ animo club、ペタンク始動

10 月 1 日、HG20 周年記念事業の一つである、animo club（ランニング＆ペタンク）のプレ活動として、“ ボンジュール清音 ” ペタンク大会に、HG 本部スタッフ 3 名が出場しました。日本ではまだまだ馴染みの薄いペタンクですが、岡山は知る人ぞ知るペタンク県です。今大会にも全国から腕自慢が集っていて、にわか仕込みの HG チームは結局一勝もできませんでしたが、ペタンクを愛する方々とつながることができました。animo club はただ今、クラブメンバー募集中です。

「第 23 回アンコールワット国際ハーフマラソン」は 2018 年 12 月 2 日（日）開催予定！